

PRESS RELEASE

2023年8月22日

ARアドバンステクノロジー株式会社

代表取締役社長 武内 寿憲

ブリヂストンが「物流の2024年問題」に向けた構造改革に着手 ～物流コストを見える化し、構造改革のための基礎データを取得～

ARアドバンステクノロジー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：武内 寿憲、以下ARI）は、ブリヂストン株式会社（本社：東京都中央区、取締役代表執行役 Global CEO：石橋 秀一、以下ブリヂストン）が、ARIの提供する「データ・AI活用支援サービス dataris（デタリス）」のコンサルティング支援により物流コストを見える化し、本事例のインタビューを公開したことをお知らせいたします。



導入事例

ブリヂストンの タイヤ物流DX



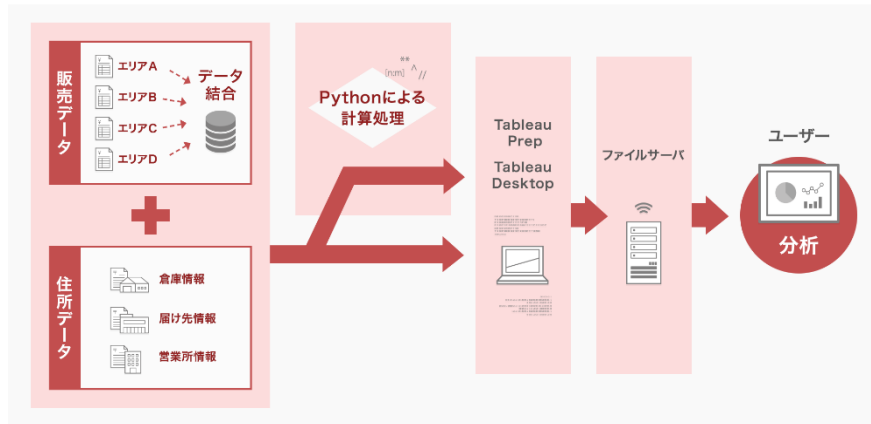
■物流業界に求められる構造改革。まずは現状の見える化から着手

ブリヂストンの物流部門では、顧客の要望に応じてタイヤ等の商品配送を可能な限り早く行えるよう取り組むなかで、物流の「ラストワンマイル(※1)」の効率化が課題となっていました。また「物流の2024年問題(※2)」でも取り沙汰されるように、自動車運転業務の労働時間規制強化に起因する物流コストの上昇圧力が高まり、基本的な構造改革を迫られていました。

まずは現状の物流体制を把握するため、担当者が着手したのは過去2年間の販売データの分析です。Python や、BI ツールとして Tableau を用いたシステムで、地域ごとに得意先別の緯度経度、配送走行距離・配送回数などのデータを整備、可視化しよう取り組みました。しかし、分析対象となる販売データは20GB・約1億件。担当者が一人という状況で、データ整備、可視化ができたのは3か月間で全体の1/7程度でした。

迅速な取り組みが求められるなか「データ・AI活用支援サービス dataris」を提供しているARIが、ブリヂストンが取り組む大規模データの整備や可視化について、専門的な知見、技術の支援を行うことになりました。

データ分析フローイメージ



■ 配送コストを可視化、分析するための環境づくり

2022年10月より、dataris チームが支援を開始。都道府県ごとのデータを結合しマスタ作成を行うなどの事前準備を行い、システムヘデータを連携したのち、配送走行距離、配送回数、緯度経度のデータを抽出。その後エリアごとに Tableau でのダッシュボードを構築することで、配送コストの可視化と分析ができる環境をつくりました。

「dataris」のコンサルティング支援によって、得られた効果は以下のとおりです。

- Tableau の見識を持つ dataris チームにより、速やかにデータを可視化
- 可視化により、配送コストに関する課題を明確化
- 今後本格的に物流 DX を推進していくための基礎データ取得

今後さらに分析を進め、最適な配送サービスの形を模索していく予定です。

■ 関連 URL

- ブリヂストン様 導入事例：<https://ari-jp.com/voice/bridgestone/>
- ZidOMA data サービスページ：<https://zidoma.com/data.php>

(※1) 物流の最終拠点からエンドユーザーまでの最後の配送区間 のこと。

(※2) 2024年4月1日以降、トラックドライバーの時間外労働時間の上限が年960時間に制限されることにより発生する諸問題のこと。諸問題の影響により、物流コストの上昇が懸念されている。

※文中に記載されている会社名、商品名、サービス名は各社の商標または、登録商標となります。

参考資料：①お客様のコメント、②ブリヂストン会社概要、③ARI 会社概要については、別紙に添付いたします。

< メディアからのお問い合わせ先 >

広報担当：関(せき)

電話：03-6450-6080 Mail：ari-pr@ari-jp.com

< プロダクトに関するお問合せ先 >

マーケティング担当

電話：03-6450-6080 Mail：ari-marketing@ari-jp.com

参考資料

① 株式会社ブリヂストン B S J PタイヤSCM改革推進部門

タイヤロジスティクス戦略課 仁井 健太郎様のコメント

dataris チームのみなさんは、内容を詳細まで理解したうえで丁寧に施策に取り組んでくれました。また、以前は周囲に技術的な相談をできる人がおらず、困ったことがあればネット検索を繰り返していましたが、dataris メンバーに聞けばすぐにレスポンスが得られます。多角的な視点でアドバイスや提案ももらえてありがたかったですね。『本当に優秀な人材が揃っているんだ』と感じました。

② ブリヂストンについて

株式会社ブリヂストンは 1931 年に福岡県久留米市に設立。タイヤ事業を核とし、メンテナンスをはじめとしたソリューション、化工品やスポーツ用品など多角的に事業を展開している。タイヤの市場シェアは世界 2 位を誇り、国内外の幅広いニーズに対応しています。また、サステナブルなソリューションカンパニーを目指し、企業コミットメントとして ‘Bridgestone E8 Commitment’ を提唱。持続可能な社会づくりのための取り組みを進めている。本事例で紹介するプロジェクトもその一環となっています。

社 名 : 株式会社ブリヂストン

設立年月日 : 1931 年 3 月 1 日

資 本 金 : 1,263 億 5,400 万円 (2022 年 12 月 31 日現在)

従 業 員 数 : 13,903 名 (2022 年 12 月 31 日現在)

U R L : <https://www.bridgestone.co.jp>

③ ARI について

ARI は、クラウド技術とデータ・AI 活用によるビジネストラנסフォーメーションデザイナーとして社会変革をリードする DX 企業です。「BX designer (ビジネストラנסフォーメーションデザイナー)」として、お客様の創造的なビジネスゴールの実現に向け、DX 化のためのデジタルシフト、クラウドシフト、データ・AI 活用支援等、顧客の課題解決に向けたサービスを提供しております。

クラウド総合活用支援サービスを提供する「cnaris (クナリス)」と、データ・AI 活用支援サービスを提供する「dataris (デタリス)」の二つのサービスブランドを軸に事業展開を行っています。

社 名 : AR アドバンステクノロジー株式会社 (略称: ARI)

設 立 : 2010 年 1 月

代 表 者 : 代表取締役社長 武内 寿憲

上 場 市 場 : 東京証券取引所 グロース市場 (証券コード: 5578)

資 本 金 : 128 百万円 (2023 年 6 月現在)

従 業 員 数 : 社員 429 名 グループ社員計 483 名 (2023 年 3 月末現在)

事 業 内 容 : クラウド技術とデータ・AI 活用による DX ソリューション事業

U R L : <https://www.ari-jp.com>